

## 目的

海洋専門リーダー人材育成のための裾野拡大 ※中長期目線での本事業の達成（ゴール）目標  
小学校高学年の段階で深海（生物）や海に携わる様々な人と出逢い、それを自分なりに理解し課題を考え、わかりやすい表現方法で人に伝える特別な経験をする事により、自分が海洋専門リーダー人材として成り得ることへの気づきを与える。今後参加者には成長していく過程で次の課題を与え、育成していきたい。グローバル含めた海洋専門リーダー人材を発掘する土壌がある「しずおか」の地において着手することで、静岡を海洋人材リーダー育成の聖地としていく事を旨とする。

## 目標

深海研究スーパーキッズ育成プロジェクト3期生の募集⇒プログラム実施・完結。  
※課題解決のための2024年度の成果目標を簡潔に記載（事業目標達成のための今年度の達成目標）  
①海洋専門リーダー人材予備軍を10名程度発掘、2期生として今後育成していく。  
②基礎講座3回（事務局・駿河湾フェリー・沼津高専など）、深海動画撮影プログラム1回（長兼丸・沼津高専）グループワーク⇒個別の課題に応じたフィールドワーク3回（沼津港深海水族館、MAOI機構他参加者の希望にあわせる）、放送局による動画制作プログラム3回の計10回の講座を経て、プレゼンを行う。  
③新聞15段記事体広告、TV番組を使って一連の流れを追いかけて情報発信し、当講座の認知を高め、次年度以降の継続的發展を促す。

## 2023年度実施内容のまとめ

実施①  
駿河湾の学び



座学およびフィールドワークを通じて、深海に関する知識インプットと、研究テーマ設定のための気づきを提供

実施②  
プレゼンの学び



自身の研究テーマおよび未来へのアイデアを、人にわかりやすく伝えるための方法をコーチング

実施③  
発表会



これまでの研究成果と、未来への提言を自分なりの方法でプレゼン。自作の映像も活用した。

## 量的成果（事業の拡がり）

- ① 新聞、TVを活用した告知等により、27名からのエントリーがあった。
- ② 深海基礎講座の第1回にて、テレビ・新聞で取材を行った他、Webサイトで9つのレポート動画を配信。
- ③ TVCMを42本放送、新聞広告4回掲載。新聞関連記事6回掲載。上記に加え、TV特番（3月）、新聞特集紙面展開（3月）も実施。



2023年度  
課題点

- ①応募数が想定よりも伸びなかった。
- ②卒業生との関係を継続する仕組みづくりを行う。

## 質的成果（次なる展開への芽）

- ① 深海への理解をより深めるべく、富山エリアの有識者へアプローチ。24年度の事業連携に向け議論が深められた。
- ② 一部のOB・OGにはプログラムのサポートもしてもらった。今後は1・2期生とコミュニケーションを継続してとる体制をつくりあげたい。
- ③ 個別プログラムでのサポートを依頼する中で、新たな海洋関連専門家との人脈づくりが構築できた。年々、このネットワークを拡大していきたい。



2024年度  
改善点

- ①応募期間を長めに設定し、チラシの配布先を増やす。
- ②具体的なコミュニティ（LINEグループなど）の構築を模索する。

# 成果報告、全体スケジュール



## 第1回～3回深海研究基礎講座

沼津高専と連携し、興味関心を深掘りするプログラム実施。駿河湾並びに深海の基礎知識を得て、興味関心を喚起。自分の興味ある内容への見つけ直しや向き合いも行った。



## 選択プログラム

沼津高専やMAOI機構と連携した選択プログラム実施。プログラミングと深海生物を模したロボット制作体験や、実際に海に携わり働いている人とリアルに接し見分を広げた。



## 動画制作 / プレゼン講義

人に伝える手法として、映像制作・プレゼンの手法を学習。今までの学びから思考を整理していく工程では自分の本質に迫る発想もしたので、苦勞する子が多かった。

深海研究基礎講座  
(6～8月)

自己学習  
(9月～)

選択プログラム  
フィールドワーク  
(8～11月)

個別プログラム  
(10～12月)

動画制作  
プレゼン講義  
(11～12月)

発表会  
(1月)



## 自己学習・事務局面談

個別学習・課題抽出のフォローとし、事務局側と参加者全員に対し1on1のオンライン面談を実施。



## 専門家面談

個人の興味関心に合わせた専門家との個別面談を実施。子どもたちは自分で調べ上げられない、専門家からの知見を得ることで、未来へのアイデア考察のヒントとなった。



## 研究成果発表会

これまでの研究成果と、未来への提言の発表。自身で制作した動画も活用し、オリジナリティあふれる発表がなされた。ゲスト審査員にさかなクンを招き、子ども達にとっても忘れられない経験を与えることができた。

## 第1回～4回深海研究基礎講座



### 深海基礎講座①@沼津高専

#### ▼実施内容

今回のプロジェクトの趣旨説明・大津先生による未知なる深海の可能性、駿河湾の紹介、その他自己紹介・アイスブレイクなど

#### ▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

すぐになじんだ参加者は好きな深海生物について研究生同士で話しあったりと打ち解けながら知識を深めていた。

#### ▼課題・改善点

2年目の実施ということもあり、特に課題と感じる点は見当たらなかった。

初めて子どもたちと触れ合う場でもあるため、子どもたちとの距離をいかに縮められるかを引き続き意識したい。



### 深海基礎講座②@沼津市・戸田地区（戸田深海生物館）

#### ▼実施内容

駿河湾フェリー船上での学習プログラムの後、戸田で深海魚を食べ、深海魚直送便を展開している青山氏がコーディネートし、駿河湾深海生物館の見学を予定していたが、天候によりフェリーが欠航、戸田地区でのプログラムのみ実施。

#### ▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

参加者同士のコミュニケーション深化の他、実際に駿河湾・深海生物などを身近に感じられるプログラムを実施し、興味・関心を喚起することが出来た。

#### ▼課題・改善点

悪天候によるフェリー欠航でプログラム変更を余儀なくされた。悪天候時の対応を事前にシミュレーションしていたため運営上は問題なかったが、子どもたちをフェリーに乗せてあげたかった。



### 深海基礎講座③@沼津港深海水族館

#### ▼実施内容

沼津港深海水族館で普段は入れないバックヤードにて飼育員さんの話を聞いたり、生物の生態観察などを実施。

#### ▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

少しずつ興味関心に差が表れてきた印象。生体の特徴などにも積極的に質問して学ぶ意欲を持っていた。

#### ▼課題・改善点

前年度、混雑時期に実施したことで施設にも負担をかけてしまった反省を活かし、今年は改善ができた。

次年度は富山の子どもたちを受け入れる想定のため、改めてどのようなプログラムで実施するか、早めに検討を進めたい。



### 深海基礎講座④@焼津港・長兼丸の体験乗船

#### ▼実施内容

長兼丸・沼津高専に協力いただき、深海漁・深海撮影体験を実施した。

#### ▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

舟に乗って、海へ出て目の前であるグソクムシやサメを見ることが出来た。長兼丸長谷川さんからは、サメの解体ショーや自身の体験談などを聞いて深海の魅力や未知なる可能性についてインプットできた。

#### ▼課題・改善点

前年度、台風の影響により日程変更などを余儀なくされたが、今年は実施時期、プログラムを見直し、運営は改善できた。

次年度、沼津港水族館同様、富山の子どもたちを受け入れる可能性があるため、内容、時期ともに早めの検討が必要。

# 成果報告、全体スケジュール

## 選択プログラム / フィールドワーク



### 選択プログラム（沼津高専）⇒10名のうち9名参加

#### ▼実施内容

プログラミングの基礎を学びその後、深海生物を模した深海お掃除ロボット製作をした。

#### ▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

プログラミングの基礎を学び、ロボットを組み立てることに夢中になってくれた。

#### ▼課題・改善点

昨年と異なり1日でのプログラムとなったことで、時間内にロボット完成まで辿り着けない子が数名いた。希望者のみのプログラムとして案内したが、結果的に9名が参加。



### 選択プログラム（MAOI）⇒10名のうち8名参加

#### ▼実施内容

深海生物のゲノム研究の紹介やサクラエビの遺伝子を抽出しての観察などを行った。  
海洋資源を活用した事業創出の事例などもレクチャー。

#### ▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

ゲノム研究、特に系統樹に関心を持つ子が多かった。

#### ▼課題・改善点

通常では体験できないプログラムであり、視点を変えたアプローチで良いインプットだったと思う。

## 個別プログラム（事務局との個別面談）



### 研究生全員とオンライン個別面談を実施。

発表テーマの設定や、調査方法などについてのアドバイス、その後の専門家面談に向け、アサインする専門家についても意見交換を行った。

#### ・個別プログラムで研究生が得たこと（学んだこと）

テーマ選考や研究の進め方に行き詰まった時の頭の整理。進む方向性についての確認。

#### ・個別プログラムを実施しての課題と改善点

昨年は事務局2名で対応したが、今年は3名体制で面談を実施。

昨年からの悩みではあるが、どこまで事務局としてアドバイスすべきか、悩む場面も多かった。

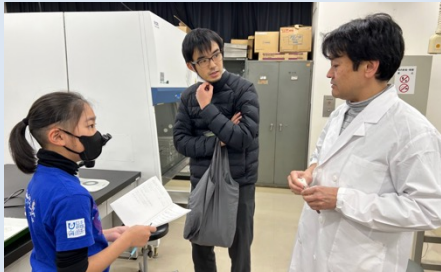
結果的に、1期生よりも発表手法のバリエーションが薄かったことも踏まえ、次年度はその点のアドバイスも積極的に実施したい。



**全20回（10人×2回ずつ）、合計15時間以上にわたる個別面談を実施**

# 成果報告、全体スケジュール

## 個別プログラム（専門家との個別面談）



研究を深めるために、研究生のテーマに沿った専門家をアサインし、個別の専門家面談を実施（一部、テーマが類似する研究生については、専門家1名に対し、複数の研究生で面談を実施）。  
昨年は感染対策の観点からもフルリモートだったが、今年は可能な限り対面での相談を実施した。

### ・個別プログラムで研究生が得たこと（学んだこと）

自分では調べられなかった専門的な話を聞くことが出来た。アイデア創発の大きなヒントとなった。  
仮説に対して専門家の意見を聞くことで、発表の方針を変えることにもつながり、大きな効果があった。

### ・個別プログラムを実施しての課題と改善点

専門家の皆さんも、子どもたちのサポートには非常に協力的に対応してくれた。  
事務局面談にも通じるが、専門家からも「正確な情報を伝えたい一方、それにより子どもたちの自由な発想を妨げてしまう可能性も感じ、対応にはとても気を遣った」という意見もいただいた。

## 個別プログラム（専門家との個別面談） — 専門家一覧 —



### シャチのスペシャリスト

東海大学 海洋学部 教授  
村山 司 氏



### 魚類学者・研究者

北海道大学 名誉教授  
尼岡 邦夫 氏



### 深海環境のスペシャリスト

JAMSTEC  
藤倉 克則 氏



### 深海生物のスペシャリスト

JAMSTEC  
藤原 義弘 氏



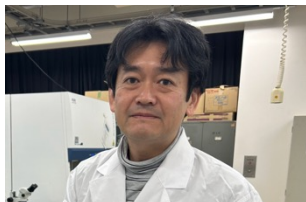
### 深海で動く機械の専門家

JAMSTEC  
鳥越 充 氏



### 医師

SBS静岡健康増進センター所長  
医師 古賀 震 氏



### 寄生虫のスペシャリスト

東京医科歯科大学  
准教授 熊谷 貴 氏



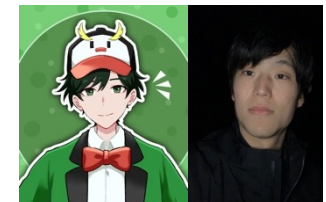
### 寄生虫のスペシャリスト

東邦大学  
准教授 脇 司 氏



### ウミクワガタの研究者

東京海洋大学 大学院  
修士1年 森下 真拓 氏



### Youtuber

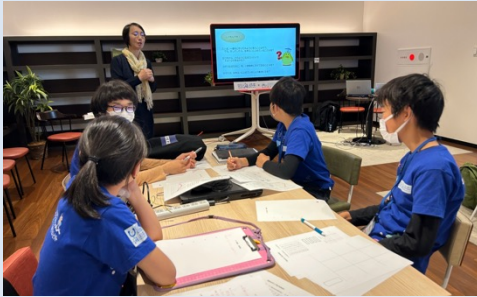
ぺんと 氏

# 成果報告、全体スケジュール

## 個別プログラム（専門家との個別面談） ー相談内容リストー

氏名	学年	研究テーマ	アサインした専門家	面談内容
濱道 咲嬉	5	静岡から生み出す！未来の治療法と産業	SBS静岡健康増進センター 所長 医師 古賀震氏	脳幹出血の治療法について、研究生の考えた仮説に対するフィードバック。 面談を経て、最終発表の内容を見直すことにつながった。
荒井 笙汰	5	深海探査ロボット ～次世代の探査方法～	JAMSTEC 研究プラットフォーム運用開発部門 運用部特機グループ 鳥越充氏	深海探査ロボットの開発に向けて、深海の水圧や、深海で稼働するために必要なことを学んだ。
大村 八純	5	深海の寄生虫	東京医科歯科大学 准教授 熊谷貴氏 東邦大学 准教授 脇司氏	東京医科歯科大学の研究室を訪れ、深海生物の解剖と寄生虫の採取、同定までを実施した。
渡邊 智仁	5	深海のトッププレデター ヨコヅナイワシの謎にせまる	JAMSTEC 地球環境部門 海洋生物環境影響研究センター 深海生物多様性研究グループ上席研究員 藤原義弘氏	ヨコヅナイワシの生態について、研究生の仮説をぶつけてフィードバックを受けた。
近藤 翼	5	物語で広がる・つながる 海洋ゴミを減らすためにできること	JAMSTEC 地球環境部門 海洋生物環境影響研究センター長 藤倉克則氏	海洋ゴミの現状を専門家から学ぶとともに、海洋ゴミを減らすためにできることは何か、フィードバックを得た。
小川 陽輝	6	アンコウ型水中釣りドローン	魚類学者 北海道大学名誉教授 尼岡邦夫氏	アンコウの生態について、専門家から学んだ。また、研究生が考えた「アンコウ型水中釣りドローン」のアイデアも聞いてもらい、専門家からのアドバイスを受けた。
小泉 明香里	6	音の使者・シャチ！ 未来に活かせるロボット	東海大学 海洋学部 教授 村山司氏	シャチの生態について、専門家から直接話を聞くことができた。
杉山 遼久哉	6	深海ステーション ～深海調査中核基地の提案とその仕組み～	JAMSTEC 研究プラットフォーム運用開発部門 運用部特機グループ 鳥越充氏	深海探査ロボットの開発に向けて、深海の水圧や、深海で稼働するために必要なことを学んだ。
葛西 彩音	6	ウミクワ型ロボット！小さい中にはいろんな機能	東京海洋大学 海洋科学技術研究科 海洋資源環境学専攻 底生動物学研究室 修士1年 森下真拓氏	東京海洋大学を訪れ、森下氏からウミクワガタの生態について学んだ。 生体の観察も実施、発表用に写真素材なども提供いただいた。
宮澤 環太	6	マイクラで魅せる世界 マイクラ海中水族館へようこそ	コードアドベンチャー 宮城島崇氏、大津多聞氏 Youtuber べんと氏	マイクラフトで深海の世界を再現すべく、マイクラフト教育版の使用方法や、ワールドの制作方法、またそれを動画で紹介するためのアドバイスをいただいた。

## 動画制作/ プレゼン講座



### プレゼン講座

#### ▼実施内容

人に伝えるとは？という意味からプレゼンを教える。個性に応じた手法や伝え方も指南。

#### ▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

発表のやり方にも個性があり、自分自身の個性についても深堀りさせた。

自分を見つめ直し、それを言語化することは子どもにとっても負荷となり、ぐったり疲れてしまう参加者も。発表に向け、個人面談も必要に応じて実施。プレゼンの完成度向上に寄与した。

#### ▼課題・改善点

動画制作に関しては、予想以上に子どもたちの飲み込みが早かった。

一方、1期生に比べ発表手法のバリエーションは薄かった印象。次回は、発表手法の幅を広げるような導きを意識して実施したい。



### 動画制作

#### ▼実施内容

静岡放送の制作スタッフより、動画の作り方、編集の仕方、テロップやフリップの使い方などを指南。

#### ▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

アウトプットの手法としてのバリエーションをインプットした。

実際にTV番組を制作するスタッフが効果的なテロップの使い方や、編集技法を指示。

子どもたちに、動画制作の楽しさや、プレゼンにおいてどの部分を動画で表現するか、など個別でアドバイスをを行った。

#### ▼課題・改善点

昨年の反省から、動画制作に必要な端末の準備や事前確認を行えたことで、機材的な苦労は少なかった。

動画制作ソフトについては、新たなアプリの登場や、端末や好みにより分かれるため、事務局として使用方法を都度学ばなければならない、という課題はこれからも付きまとうと思われる。



## 研究成果発表会/修了式

### 研究成果発表会

#### ▼実施日時

2024年1月27日（土） 13:00-16:00

#### ▼会場

Cafe & restaurant Tembooo（静岡新聞SBS本社17階）

#### ▼実施内容

10名の研究生による研究成果並びに未来への提言についてのプレゼンテーション発表会と、半年間のプロジェクトを締めくくる修了式

#### ▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

参加者の昼食会も実施でき、TV制作チームにとっての準備のしやすさなども考慮し会場を選定。

昨年に続き、ゲスト審査員としてさかなクンを招き、特別感を演出することができた。

さかなクンからは、記念品として個別メッセージ入りのネームカードを配布。参加者は大いに喜んだ。

当日は午前中に最終練習会並びにリハーサルを実施することで、スムーズな進行ができた。

10名の研究生全員が、堂々と、オリジナリティあふれる発表を行ってくれた。

#### ▼課題・改善点

1年目、2年目に連続でさかなクンをゲストに起用したが、次年度は検討中。

一人当たりの発表時間に、多少バラつきがあった。時間管理も次年度はさらに意識したい。

プレゼン時の引用文献や写真などについても、引用元の表記など、プレゼンとしての完成度を上げたい。

#### ▼審査員

さかなクン

日本財団 常務理事 海野光行氏

東海大学 海洋学部長 齋藤寛氏

SBSテレビ 制作プロデューサー 鈴木俊夫氏



大賞を受賞した渡邊智くん



日本財団 常務理事 海野光行氏による講評



さかなクンから「さかなクン賞」の授与



全員で集合写真



## 研究発表について（受賞者紹介）

### ★深海研究スーパーキッズ大賞★

渡邊智仁くん（5年）

「深海のトッププレデター ヨコヅナイワシの謎にせまる」

＜研究の過程、プレゼンテーションのポイント＞

- ①まだまだ解明されていない点の多いヨコヅナイワシの生態に迫る研究だった
- ②溢れるほどのヨコヅナイワシへの愛に満ちたプレゼンテーションだった

＜受賞の理由・審査員コメント＞

「とにかくヨコヅナイワシ愛を感じた。好きに勝るものはない！」（シヅクリ山下代表）



溢れるヨコヅナイワシへの愛が評価され見事大賞を受賞

### ★海と日本プロジェクト賞★

近藤翼さん（5年）

「物語で広がる・つながる 海洋ゴミを減らすためにできること」

＜研究の過程、プレゼンテーションのポイント＞

- ①ゴミ問題を広く伝えるため、自作の物語を使ってアプローチした
- ②ゴミを減らすアイデアのプレゼンにとどまらず、幼稚園や小学校に出向いて物語を披露する行動力

＜受賞の理由・審査員コメント＞

「海洋ゴミ問題の解決に必要な“多くの人伝える”ことを実践してくれている」（日本財団 海野常務理事）



自作の「ものがたり」も本にし発表。参加者にも配布。

### ★さかなクン賞★

小川陽輝さん（6年）「アンコウ型水中釣りドローン」

＜研究の過程、プレゼンテーションのポイント＞

- ①応募当初から初志貫徹で、大好きな「ミドリサアンコウ」を研究の題材にした  
プレゼン時には、自作の骨格標本も披露した
- ②数種のアンコウの特徴・機能を活かした、独創性のあるロボットのアイデア

＜受賞の理由・審査員コメント＞

「堂々とした発表で素晴らしかった。ぜひアイデアを将来実現してほしい！」（さかなクン）



動画を主としたプレゼンテーションを実施

## 研究発表について（受賞者紹介）

### ★プレゼンテーション賞★

#### 小泉明香里さん（6年）「音の使者・シャチ！未来に活かせるロボット」

##### ＜研究の過程、プレゼンテーションのポイント＞

- ①プレゼンテーション資料の質の高さ、堂々とハキハキとしたプレゼンテーションができた
- ②プレゼンの途中でクイズを挟んだり、スライドのみならずスケッチブックを活用したり、聞いている人を飽かさず、興味を引き出すようなプレゼンができていた

##### ＜受賞の理由・審査員コメント＞

「シンプルかつ、見ている人のことを考えた、プロのようなプレゼンだった」（SBS鈴木氏）



さかなクンにもシャチの潜る深さをクイズにして問いかけました

### ★海洋研究賞★

#### 葛西彩音さん（6年）「ウミクワ型ロボット！小さい中にはいろんな機能」

##### ＜研究の過程、プレゼンテーションのポイント＞

- ①ウミクワガタというニッチな生物に焦点を当て、その独特な生態についての説明が興味深く聞いている人の興味を惹くプレゼンとなっていた
- ②自ら大学祭や研究室に出向くなど、真摯に研究に取り組んだ様子が見てとれた

##### ＜受賞の理由・審査員コメント＞

「小さな生物から、独自の観点で発想したアイデアが素晴らしかった」（東海大学 齋藤学部長）



自ら大学院生に話を聞き入ったりと熱心に考察しました

### ★特別賞★

#### 濱道咲嬉さん（5年）「静岡から生み出す！未来の治療法と産業」

##### ＜研究の過程、プレゼンテーションのポイント＞

- ①トップバッターという大役にも怖気付かず、堂々としたプレゼンを実施してくれた
- ②研究テーマ設定→仮説を立てたが壁に当たる→発表内容の方針変更、というプロセスが見てとれた。調査研究の進め方、思考方法については大人顔負けの素質を感じた。

##### ＜受賞の理由・審査員コメント＞

「トップバッターながら、堂々としたプレゼンに審査員一同感動した」（SBS鈴木氏）



アンコウの養殖の可能性という新産業の提案をしました

## 表彰式/修了式



6名の受賞者に賞状と副賞を授与



海野常務より、深海調査の分野の最新情報についてご紹介  
キッズたちの今後のさらなる研究に向けた激励のメッセージ



7ヶ月間のプロジェクト遂行を称え修了証書と記念品を授与



7ヶ月のプロジェクトを終えた10名の研究生

# 成果報告、全体スケジュール

## 研究成果発表会/修了式

### 発表テーマ一覧

発表順	開始時間	氏名	学校名	学年	発表タイトル	発表後感想コメント	備考
1	13:25	濱道 咲嬉	静岡市立伝馬町小学校	5	静岡から生み出す！未来の治療法と産業	日本財団 海野常務理事 東海大学 齋藤学部長	
2	13:35	荒井 笙汰	静岡大学教育学部附属浜松小学校	5	深海探査ロボット ～次世代の探査方法～	さかなクン 鈴木俊夫プロデューサー	
3	13:45	大村 八純	中野区立立谷戸小学校	5	深海の寄生虫	東海大学 齋藤学部長 さかなクン	
4	13:55	渡邊 智仁	伊豆の国市立韭山小学校	5	深海のトッププレデター ヨコヅナイワシの謎にせまる	鈴木俊夫プロデューサー 日本財団 海野常務理事	
5	14:05	近藤 翼	静岡市立大里西小学校	5	物語で広がる・つながる 海洋ゴミを減らすためにできること	日本財団 海野常務理事 鈴木俊夫プロデューサー	

### 休憩(14:15-14:30)

6	14:30	小川 陽輝	浜松市立篠原小学校	6	アンコウ型水中釣りドローン	さかなクン 日本財団 海野常務理事	
7	14:40	小泉 明香里	静岡市立清水船越小学校	6	音の使者・シャチ！ 未来に活かせるロボット	東海大学 齋藤学部長 鈴木俊夫プロデューサー	
8	14:50	杉山 瑳久哉	清水町立清水小学校	6	深海ステーション ～深海調査中核基地の提案とその仕組み～	鈴木俊夫プロデューサー さかなクン	
9	15:00	葛西 彩音	大和市立西鶴間小学校	6	ウミクワ型ロボット！小さい中にはいろんな機能	日本財団 海野常務理事 東海大学 齋藤学部長	
10	15:10	宮澤 環太	東海大学付属静岡翔洋小学校	6	マイクラで魅せる世界 マイクラ海中水族館へようこそ	さかなクン 日本財団 海野常務理事	

### 受賞者

「深海研究スーパーキッズ大賞」

「さかなクン賞」

「海と日本プロジェクト賞」

「海洋研究賞」

「プレゼンテーション賞」

「特別賞」

渡邊智仁さん 「深海のトッププレデター ヨコヅナイワシの謎にせまる」

小川陽輝さん 「アンコウ型水中釣りドローン」

近藤翼さん 「物語で広がる・つながる 海洋ゴミを減らすためにできること」

葛西彩音さん 「ウミクワ型ロボット！小さい中にはいろんな機能」

小泉明香里さん 「音の使者・シャチ！未来に活かせるロボット」

濱道咲嬉さん 「静岡から生み出す！未来の治療法と産業」



## 児童が深海の謎 探究

### 沼津高専で開講



オオクワムシを観察する児童。沼津市の沼津高専

深海好きの小学5、6年生を対象にした「深海研究スパーキッズ育成プロジェクト」(一般社団法人シ

ヅクリ主催)が24日、沼津市の沼津高専で開講した。次世代の海洋専門リーダの育成を目指す日本財団の

「海と日本プロジェクト」の一環。県内外の児童10人が参

加。初回は沼津高専の大津孝佳教授と高専生から、深海に関する基礎知識を学んだ。児童はオオクワムシの行動観察に関する高専生

## 2023.6.25静岡新聞 ※第1回基礎講座の様子

の発表を聞いた後、オオクワムシと一緒に観察した。講座を通して分かったことや興味関心をまとめ、参加者同士で共有した。来年1月まで全11回の予定。深海に関する講座を受

けたり、フィールドワークを行ったりする。プロジェクト終盤には各自で関心のある研究テーマを決め、学びを短編動画にまとめて発表する。  
(東部総局・菊地真生)

裾野市立富岡第一小6年の中平颯星君(12)が2月中旬、珍しいシマガツオの幼魚の捕獲に成功した。清水町の商業施設サントムーン柿田川内の幼魚水族館によると、成魚ははえ縄漁などに掛かるが、展示可能な状態で捕獲される例は少なく幼魚の展示事例は確認できないという。幼魚は同館に寄贈し、展示されている。



展示されているシマガツオの幼魚。2月下旬、清水町の幼魚水族館

## 捕まえた！ シマガツオの幼魚

裾野・富岡第一小 中平颯星君



真新しい姿で水面を泳ぐ、幼魚を海中で撮影。11月下旬、沼津市

展示例少ない深海魚

「いつか新種を」

幼魚の体長は5〜8センチ。2月18日、沼津市大津港で浅瀬に浮いていたシマガツオの幼魚を、中平君が捕まえた。まさか幼魚が捕まえられるとは思わ

なかったと驚きを感じた。岸壁での幼魚採集に熱中している中平君。「いつか新種を」ともいふ。幼魚が捕まえられると生物が捕れてワクワクすると目を輝かせる。小学4年生のころ、岸壁で幼魚採集家として知られるタレントで同館館長の鈴木香里さんの講演を聞いたのをきっかけに幼魚採集に関心を持った。深海魚の稚魚・幼魚が冬に浅瀬に現れることを知り、今冬は毎週のように早朝から漁港に通い詰めた。これまでにもオオクワムシ・ハナドクワイ、ツボダイなど珍しい海洋生物の幼魚を多く採集している。

シマガツオ 本邦産にはなく分布し、水深200〜400mに生息する深海魚。別名「エチオピア」とも呼ばれる。体色は黒黒色で、成魚は体長50センチほどになる。食用としても流通する。

## 2023.3.3 静岡新聞掲載 ※第1期生・中平颯星君





THE NIPPON PROJECT 海と日本

このプロジェクトは日本新聞社と日本プロジェクトの一環として行われています。



深海研究  
スーパーキッズ育成プロジェクト

世界に誇る海洋・深海のプロフェッショナル人材を静岡から輩出することを目標としてスタートした、「深海研究スーパーキッズ育成プロジェクト」第2期を迎えた今年度は10人のキッズが参加しました。深海に関する講座やフィールドワークを経て、それぞれが関心のある研究テーマを設定し、未来に生かせるアイデアとして発表しました。キッズたちの7カ月間の取り組みを紹介します。

(企画・制作/静岡新聞社地域ビジネス推進局)

**1 深海基礎講座**

大津先生の講演について学びました。

長巻先生と深海魚について学びました。

第1回生が初めての発表発表を発表しました。

さあ、深海について学ぶ時間です。駿河湾深海生物館や沼津湾深海水族館に行ったり、長巻丸に乗って深海魚漁に行ったり…。深海ザメの解体ショーも！キッズたちは目を輝かせて見学していました。

**2 グループワーク**

深海生物の特性をロボットで再現してみんなの前で発表！

プログラミングの基礎を学んでそれぞれが興味のある深海生物の特性、動きをロボットで再現！また、海洋研究施設のMaOI機構を訪問し、顕微鏡を使った観察やサクラエビのDNA抽出にチャレンジしました。

**3 専門家面談、映像製作・プレゼン講座**

体系的なプレゼン方法や動画の編集を学びました！

それぞれの研究テーマが決まったところで、自分だけでは解決できない疑問を専門家へ相談。さらに映像製作・プレゼン講座では発表方法のアドバイスももらい、いよいよ次は研究成果発表会です！

ワクワク自由、頑張りました！

素晴らしい発表場！

**研究成果発表会**

プロジェクトの冒険はこれから

1月27日(土)、これまで研究してきた成果を発表しました。審査員にはさかなクンが登場！堂々とプレゼンテーションを行うキッズたちの姿に「すごいですね！」を連発していました。

**さかなクンがキョロキョロ**

深海キッズ。別冊!!

SBSテレビ **3月20日** 午後1:55~2:55

プロジェクトの冒険はこれから



静岡新聞社 静岡新聞社・静岡放送 企画推進局内 深海研究スーパーキッズ育成プロジェクト事務局 054-281-8009(平日9:00~17:00) kikakusuushin@shizuokaonline.com

2024.3.19 プロジェクトの軌跡をまとめた特別紙面の掲載



## 2023.7.26 SBSラジオ「鉄崎幹人のWASABI」の露出

番組:SBSラジオ 鉄崎幹人のWASABI

放送日時:2023.7.26(水)10:00~10:10頃

出演:望月やすこ(カメラマン)

テーマ:めちゃすごい! 深海キッズの研究成果

第1期・第2期とカメラマンとして、各プログラムに同行してくれている望月やすこさんがラジオ番組の中で、「深海研究スーパーキッズ育成プロジェクト」と第1期生について紹介していただきました。

第1期生のうち6人の年間の取り組みや最終プレゼンの内容をお話していただきました。



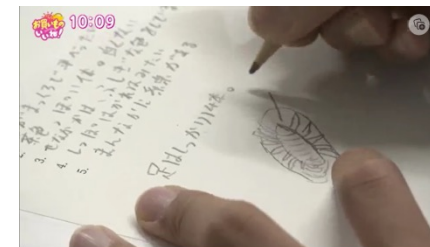
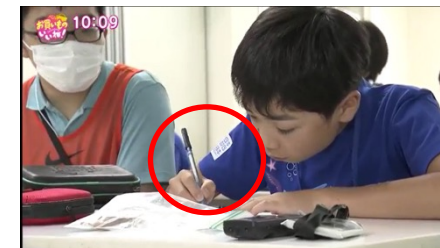
## 2023.7.4 SBSテレビ「お買い物いいね」の初回講座露出

(ナレーション)

小学5・6年生を対象とした  
「深海研究 スーパーキッズ育成プロジェクト」が沼津市で開かれました。

日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で  
次世代の海洋専門リーダーの育成を目指します。

県内外から参加した児童10人が  
深海に関する基礎知識を学んだり、  
深海生物を観察したりしました。



# テレビ露出

2023.8.12 テレビ東京「港はしご旅 6」の露出

番組名 土曜スペシャル「港はしご旅 6」  
放送日時 2023年8月12日(土)  
夜6時30分～8時00分OA  
配信 ネットもテレ東、TVer(ティーバー)、  
GYAO!にて3週間の見逃し配信  
Paravi(パラビ)での1年間の配信

さかなクン出演の番組の中で、  
第1期生・佐々木蒼大くん登場。

さかなクンとの関係性の紹介の中で、  
2022年度プログラムの様子を放送。



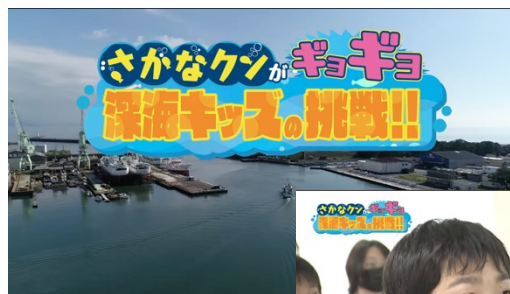
2024.1.28 SBSテレビ「JNNニュース」

番組名 JNNニュース  
放送日時 2024年1月28日(日)  
朝6時45分～7時00分OA

研究成果発表会の様子をニュース報道



# テレビ露出



**2024.3.20 プロジェクトの軌跡をまとめた1時間番組の放送  
(2023.3.20 13:55-14:55 SBSテレビ)**



キッズたちの憧れの存在「さかなクン」が今年もやってきました【さかなクンがギョギョ 深海キッズの挑戦!!】  
345 回視聴・12 日前

SBS (静岡放送)

日本一高い富士山。世界文化遺産が見下ろす先に広がるのが、静岡県が誇る日本一深い「駿河湾」。いまだ解明されていない謎や...

**地上波放送終了後、youtubeにも期間限定でアップロード**

昨年との視聴率データ比較

**2023年度 平均世帯視聴率 2.6%**  
(2022年度 世帯平均視聴率 5.0%)

コメント

2022年度は直前までWBC決勝の放送があり、その高視聴率の影響を受けた。

世帯視聴率2.6%は、統計上約10万人が視聴したこととなる。

地上波のみの放送後はyoutubeにて本編を公開し、より多くの方に視聴いただけるよう取り組んだ。

# 参加者へのアンケート結果

## プロジェクトスタート時と修了時の2回、海洋・深海に関する知識および研究意欲などについてのアンケート調査を実施

深海研究スーパーキッズ育成プロジェクト アンケート おもて

■あなたについて、教えてください

名前: \_\_\_\_\_ 学年: 年 \_\_\_\_\_ 性別: 男・女   ※印をつけてください

■以下の質問を読んで、あなたがそう思う回答を1つだけ選んで○で囲んで下さい

Q1. 今食べている魚やいかそのなどの海の食べ物は、海の環境(かんきょう)の変化や、人がむやみにたくさんとることによって、食べられなくなる目があるかもしれない。

1. とも知っている 2. 少し知っている 3. あまり知らない 4. まったく知らない

Q2. 世界中で1年間に約800万トンの海洋ゴミが海に流れだして、その70~80%は、わたしたちがずんでいるまじから出ている。

1. とも知っている 2. 少し知っている 3. あまり知らない 4. まったく知らない

Q3. 海水の温度が高くなることによって台風が大きくなるなど、気候のへんかと海のへんかは大きくかわっている。

1. とも知っている 2. 少し知っている 3. あまり知らない 4. まったく知らない

Q4. 海水の温度が高くなることなどにより、その場所でもともといた魚のしゅりがかわってきている。

1. とも知っている 2. 少し知っている 3. あまり知らない 4. まったく知らない

Q5. 二酸化炭素が海の中にとけることなどにより「海洋酸性化(かいようさんせい化)」というげんじょうがおき、サンゴや貝などがこっかくやからを作りにくくなる可能性がある。

1. とも知っている 2. 少し知っている 3. あまり知らない 4. まったく知らない

Q6. 駿河湾は日本で最も深い湾(わん)で、多くの深海生物がくらしている。

1. とも知っている 2. 少し知っている 3. あまり知らない 4. まったく知らない

Q7. 深海についての研究は、宇宙の研究よりも難しいと言われていて、まだまだ解明(かいめい)されていないことがたくさんある。

1. とも知っている 2. 少し知っている 3. あまり知らない 4. まったく知らない

Q8. 生活の中で、海のことを考えたり、調べたりすることはありますか？

1. とも多くある 2. たまにある 3. あまりない 4. まったくない

どんな時に海のことを考えたり、調べたりしますか？くわしく教えてください。

うらにつづく

U-SEA PROJECT 文庫研究 スーパーキッズ育成プロジェクト

深海研究スーパーキッズ育成プロジェクト アンケート うら

Q9. 生活の中で、海のことを意識(いしき)した行動をしていますか？

1. ともしている 2. たまにしている 3. あまりしていない 4. まったくしていない

どんな行動をしているか、くわしく教えてください。

Q10. イベントに参加して、深海について詳しくなったと感じていますか？

1. とも感じる 2. 少し感じる 3. あまり感じない 4. まったく感じない

深海について、あたらしく学んだことを出来るだけくわしく教えてください

Q11. あなたは、自分のやりたいことや興味・関心を見つけるのが得意ですか？

1. とも得意 2. 人よりは得意だと思う 3. あまり得意ではない 4. 苦手

Q12. あなたは、自分が知らないことがあった時、調べて答えを探すのが得意ですか？

1. とも得意 2. 人よりは得意だと思う 3. あまり得意ではない 4. 苦手

Q13. あなたは、何かを調べるときに、すぐ行動にうつすタイプだと思いますか？

1. ともそう思う 2. 少しそう思う 3. あまり思わない 4. まったく思わない

Q14. あなたは、他の人と一緒に協力して物事を進めるのが得意ですか？

1. とも得意 2. 人よりは得意だと思う 3. あまり得意ではない 4. 苦手

Q15. あなたは、自分の考えや気持ちを、人の前で表現することは得意ですか？

1. とも得意 2. 人よりは得意だと思う 3. あまり得意ではない 4. 苦手

ご協力ありがとうございました！

U-SEA PROJECT 文庫研究 スーパーキッズ育成プロジェクト

アンケート15問×研究生10名の計150の回答

※別紙アンケートデータを参照

海洋・深海に関する知識についての質問については、プロジェクトスタート時よりも、終了時の方が高まったという回答が多かった。

一方、Q13、Q14においては実際に研究に取り組んだ経験から、自身に対する評価が厳しくなったようだった。